

上高地の雨

森健 (23 回生)

昨年の下尾瀬ハイイクの会に参加したのは、ちょうど会社生活にピリオドを打って新しい気持ちで再出発という時でした。それだけに、またとないリフレッシュの機会になりました。参加チームの皆さんの明るい元気にすっかり乗せられて、これからの挑戦に良い加速をつけることができました。同行した家内にとっても、とても印象深かったようです。

ことしは上高地ハイイクの会。家内は足の心配があつて



参加できませんでしたが、2人分の積もりで参加しました。新宿の待ち合わせ場所に行く、昨年のなつかしい顔がつぎつぎと現われました。もっとも、もっと早く行って皆とビールをぎゅっとやればもっと良かったのですが。

バスが走り出したと思ったら、あつという間に乗鞍高原畳平でした。小雨模様で、日の出を拝むことはできませんでした。しかし高いところにあがつていると、静かに明るく見えてくるまわりの高地と手前の草原をたのしめました。こちらがのんびりしている間に、乗鞍最高峰の剣が峰までちゃんとあがつて来た人がいます。さすが土佐高ですね。心配だったのはむしろ次の上高地です。まえに卒業まえの子供たちを連れていったときに、河童橋から見た穂高の美しい姿をまた見てみたいと思っていたからです。

着いてみると、まだ雨でしたが次第に止みそうな期待を持ってました。各自の自由行動ということでしたが、河童橋から明神池を訪れて、明神橋

を渡って梓川の対岸を帰ってくるハイキングの組に加わりました。雨に湿った緑の美しさ。梓川やその支流の水の清らかさところどころで見かけるかるがもの一家をたのしみました。期待の穂高もとき姿を見せてくれました。むしろ参加した皆さんと雨でしっとりとした上高地をゆっくり散策できたことは良かったと思います。

帰りは昨年と同様ににぎやかなバスツアーをたのしんで、定刻に帰って来ました。幹事の皆さんには、本当にお世話



になりありがとうございます。考えてみますと、Tハイイクの会は37回38回を中心とした皆さんの富士山への感動の挑戦からはじまったのですよね。こんな企画をし、さつと実行する、これは素晴らしいことですね。そのチャレンジ精神、創造性こそは土佐高の精神です。それにまぶしくなるような美人の参加が多いことも良いですね。

21世紀の若手を引張って、明るい未来を築いてくれるのは、皆さんです。

皆さんの若々しい力を中心にして、これからもトレッキングの感動をたのしめるように、新しいコースへのチャレンジをお願いします。またまた参加してない方も積極的に参加して下さい。もちろんわれわれOBのなかのOBにも声をかけていただけると幸いです。誘っていただければ喜んでついて行って、コースによっては後に下がってゆっくりビールでも飲んでおくことにします。来年もぜひTハイイクの会をやして下さい。





イランの貧しい少年アリが修理に出した妹ザーラの運動靴を不注意から失くしてしまふ。親には言えない。明日から学校へ行けない、とすねるザーラ。さて・・・

これは、はじめて観たイラン映画「運動靴と赤い金魚」の話だ。

困った揚げ句、アリは、オレの運動靴を二人で交替に履けばいい、と云う。ザーラはしぶしぶカプカプの兄の運動靴を突っかけて午前授業に出る。急いで帰ると、今度は待ち構えるアリが、靴を履き替え、おくれまいと午後の授業に駆け出す。

親には内緒で急場を凌(しの)ぐ。これが幼い兄妹の精いっぱいの子工だが、その中には、貧しくてもこころ寄り添うらしい兄妹愛が見える。私はシーンごとに笑い、

笑いながら胸がジーンと熱くなつた。

そんな折、県内の学校別マラソン大会があり、三等賞で何と運動靴が貰える、と云うのだ。アリは勇んで参加する。ザーラの靴が貰える、必ず貰うゾ、と念じながらアリは三等をめぐし、ひたすら走るのだ。

ところが勢い込みすぎて一等になつてしまふ、一等では

泣き虫 怒り虫

十回生 立仙浩一

運動靴は貰えない。がっかりしてアリは家に帰り、庭に座りこみ、運動靴を脱ぐ。豆だらけの足指、底のぬけてしまつた運動靴。アリはそのボロボロの運動靴をじっと見ている。

そのシーンに私はハツとなつた。これは他人(ひと)事ではなかった。アリと同様、運動靴についての、貧しさ故のせつない思い出が私にもあつた。

私の中学では、毎月一回持物検査があり、その中に運動靴も入っていた。私の靴は二年も前のもので、伸び盛りの私の足には疾(はや)と云うに履けなくなつていた。無理して私立中学に入学(はい)つたものの、母ひとりの生計(かせぎ)では、月づきの月謝も遅れる有様だつたし、新しく運動靴を買つて、とはとても言えない。

検査の当日、私は小さくなつて履けない運動靴を隠すようにそつと並べた。回つてきた先生は、私の方をチラと見たが、黙つてその仮通(かとお)りすぎた。私はホツとしたが、同時に自分の貧しさを見透(みとお)かされたような屈辱(くじく)を覚えてもいた。

せつない運動靴

このイランの映画では、兄妹は最後には運動靴を買つて貰えるのだが、私の場合はそのあと新しい運動靴を履いた記憶がない。

運動靴一足、息子に買い与えられなかった母の無念を想うことはあつても、そのことで母を恨むことなどなく、今では却つて母との深い絆(絆)を感じている。

37回生同期会 幸徳正夫(37回生)

平成11年10月2日J.R五反田「ゆうほうと」において37回生の同期会が20名の参加を得て開かれた。「いやア一別以来です」と恰好をつけての挨拶もメツキの剥けるのは早い。そこは同期会、あつという間に思い出話や近況報告の花が咲く。卒業以来38年振りにも再会したK氏は、不断の努力が天性の賜物が体形はドン

ピシャリ高校時代のままでありケンタッキースタイルの貴禄諸氏の羨望の眼差を一身に浴びる。「あいや、今日はHのエツチ(H氏)が居らんねや」といつも同期会の中心にあつて賑やかなH氏の仕事での欠席を惜しむ声しきり。H女史差入れの土佐鶴の小瓶がパツパツと瞬間に空になりメートルが上る頃には医師のK氏を囲んでの俄(俄)か健康談義。血圧、血糖、中性脂肪に肝機能等々の数値が各氏より激みなく発せられお互いに一喜一憂す。生涯現役たらんと願う男性軍の健康談議は、学生時代の授業など比べものならぬ真剣さ。しかるに女性軍の若やいでいること。「勿体無いことをした」との影の声も不謹慎でもお世辞でもない若々しさ。叶うものなら若さを競いたい男(おとこ)ころ。いつもものことながら宴(うたげ)の頃に、時間厳守の音がかり、懐しくも温かい2時間を共有した同期会も、K氏が森信三先生(教育者・哲学者)の『人生の一生』を紹介し、一同大きく頷きながら再会を約しつつ散会す。

職業に上下もなければ貴賤



土佐高校サッカー部全国大会へ!!

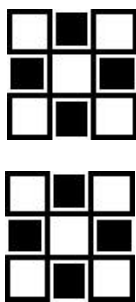
もない。世のため人のために役立つことなら、何をしようとする自由である。しかしどうせやるなら覚悟を決めて十年やる。すると二十からでも三十までにはひと仕事できるものである。それから十年本気でやる。すると四十までに頭をあげるものだが、それでいい気にならずにまた十年頑張ると、五十までには群をぬく。しかし五十の声をきいた時には、大抵のものが息をぬくが、それがいけない。「これからが仕上げだ」と、新しい気持ちでまた十年頑張る。すると六十ともなれば、もう相当に実を結ぶだろう。だが、月並の人間はこの辺で楽隠居したくなるが、それから十年頑張る。

すると、七十の祝は盛んにやってもらえるだろう。しかし、それからまた、十年頑張る。するとこのコースが一生で一番おもしろい。

お悔やみ申し上げます

15回生 森下 茂 さん

平成11年7月1日



「筆山」27号の原稿も集まり、編集、校正も終えた11月14日、母校よりインターネットに乗って思いがけない朗報が届いた。おかげで編集部は、速報記事の差し込み、紙面の組み替えて灰神楽の立つような大騒ぎとなった。

この日、母校サッカー部は、全国高校サッカー選手権への出場をかけた県大会決勝戦で、強敵追手前高校と対戦、何とこれを3・2で破り悲願の選手権出場を決めたのである。勿論、土佐高校サッカー部史上初の快挙である。

試合は前半17分に土佐が先制、24分に同点にされると、サイドの変わった後半12分に勝ち越し、さらに18分に追加点を挙げ、追手前の追撃を後半38分の1点だけに抑え、3・2で逃げ切り、『国立』へのキップを手にしたのである。

ひらめき光る

このチームは、高知新聞紙上で「ひらめき光る個性派集団」との賛辞を浴びていたが、ヒールパスやドリブルといった個人技を縦横に繰り出す、



すぐれたタレント集団と言えるようだ。ここにも母校の自由闊達な雰囲気と個性尊重の教育理念が息づいており、本大会での活躍が大いに期待される。

1回戦は12月31日
仙台育英と

気になる1回戦の組み合わせだが、12月31日千葉県総合運動場陸上競技場の第2試合、14時10分から宮城県代表の仙台育英高校との対戦となった。暮れの慌しい時ではあるが、後輩諸君が持てる力を存分に發揮し、見事初戦突破を果たせるよう、多くの同窓の応援が待たれる。

また試合前日の30日午前9時30分からは、神宮外苑国立競技場において開会式が行われる。光り輝く後輩イレブンの晴れ姿は、こちらでもたっぷり見ることが出来る。

